

「共生の森」の植物 平成28年1月27日

冬芽 (ふゆめ・とうが)



暴れる怪獣系 センダン

木々が葉を落とし、生き物の気配もなく、閑散とした感じの「共生の森」。

だけど、今日のように晴れた日に、葉を落としたあとをよく見ると、個性あふれる、いろいろな表情が見られる。動物系、怪獣系、妖精系に王様系・・・結構にぎやか。



ヒツジ系 オニグルミ



絶叫系 アオギリ



手を振る系 クヌギ



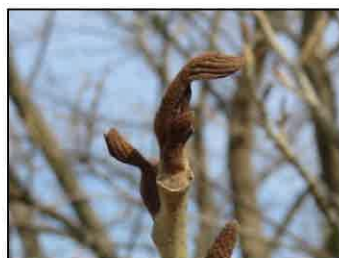
カオナシ系 シンジュ



怪獣系 ハゼノキ



コビト系 ムクノキ



妖精系 シナサワグルミ



王様系 マルバアオダモ

植栽地のようす (平成17年3月植栽)



樹高4m以上に生長 林の中には落葉がたまり、生長した木から落ちたドングリから、次の世代の木が育っている。

見かけた植物・生き物



ウメ のつぼみ



ナワシログミ



ヒメオドリコソウ



カラスノエンドウ



スイセン



スイセン



イラガ 繭



ミノムシ

風は冷たいが、春が見えはじめた

ウグイス(ウグイス科)



J山を歩くと、あちらこちらからウグイスのさえずりが聞こえる。なかなか姿は見かけないが、ここ数年でウグイスの数は、かなり増えたよう。

ウグイスはツバメ・モンシロチョウ・アブラゼミなどと一緒に気象庁の生物季節観測の指標生物に指定されていて、全国各地で初鳴きが聴かれた日が記録されている。

気象庁の「ウグイス初鳴き日等期日線図」によると「共生の森」での初鳴きは3月10日ごろとなっているが、今年の「共生の森」では2月の中旬にはすでに、さえずっていたとのこと。

見かけた植物・生き物



ウメ



スイセン



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



ツグミ



タヒバリ

啓 蝥 (3月5日)



ルリシジミ



キタキチョウ



モンキチョウ



ベニシジミ

「啓蝥の日」にふさわしく

いろいろなチョウが飛んでいた



セندان



シンジュ



シナサワグルミ



ナンキンハゼ

3月5日「共生の森」植樹祭



1,710本の苗木を植栽 参加者580名  
植栽樹種(52種) サークル植え

アベマキ・アラカシ・イイギリ・イヌマキ・イロハモミジ・ウツギ・ウバメガシ・ウワミズザクラ・エノキ・オオシマザクラ・カキ・カナメモチ・クサギ・クスノキ・クヌギ・クマノミズキ・クロガネモチ・クロマツ・ケヤキ・コナラ・サカキ・サザンカ・サンゴジュ・シリブカガシ・シロダモ・シロヤマブキ・シャリンバイ・スギ・スダジイ・ソヨゴ・タニウツギ・タブノキ・タニウツギ・タラノキ・ツバキ・トチノキ・ナナミノキ・ナワシログミ・ナンテン・ネズミモチ・ハギ・ヒイラギ・ヒサカキ・ヒメユズリハ・マサキ・マユミ・ムクノキ・モチノキ・ヤツデリョウブ・ヤブツバキ・ヤマモモ・ユズリハ

「共生の森」の植物 平成28年3月30日

シロバナタンポポ(キク科)



海沿いの土手にひとかたまりの「シロバナタンポポ」が咲いていた。外来植物の多い「共生の森」で見られる数少ない在来のタンポポ。

この日は気温も高く、花には活動を始めたフタモンアシナガバチの女王蜂が蜜を吸いにやってきた。

見かけた植物・生き物



オランダアイリス



アケビ



サクラ



モモ



イヌビワ



シナサウグルミ



オオイヌノフグリ



タチイヌノフグリ

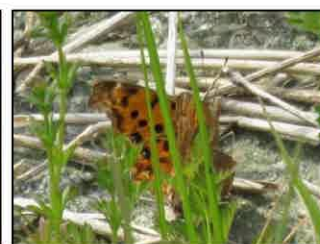
メジロ



サクラの花の蜜を吸いにやってきた



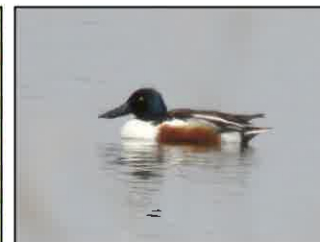
ルリシジミ



キタテハ



ツグミ



ハシビロガモ



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ



ハコベ



ナワシログミ



セイヨウカラシナ



ホトケノザ

ミサゴ (ミサゴ科)



ミサゴが大きなボラを捕まえて、電柱の上にとまっていた。ミサゴは海に飛び込んでサカナを捕まえる。周りを海に囲まれた「共生の森」では、年間を通じて、ミサゴを見ることができる。

捕まえたサカナを運ぶ時は、魚を縦に持って、魚雷を抱えたように飛んでいく。

サカナを運ぶ姿や、食べている姿はよく目撃するが、海に飛び込んでサカナを捕まえている姿はまだ見かけたことがない。

アオヒメハナムグリ



成虫になったばかりの アオヒメハナムグリ  
まだ背中に泥がついていた



アオギリ



クロマツ



ヒトツバタゴ



アキグミ



ムクノキ



ミヤコグサ

見かけた植物・生き物



ノイバラとアオヒメハナムグリ



ナヨクサフジとヒゲナガバチ



シオカラトンボ



ショウジョウトンボ



アオモンイトンボ



クロコガネ



ユリカモメ



オオバン 巣作り

フタモンアシナガバチ



フタモンアシナガバチの女王蜂が巣作りを始めた  
巣の中には、卵が産みつけられていた

「共生の森」の生き物 平成28年5月29日

なんと サカナ登場！！



「水質の問題で、サカナはまだ住めないかも・・・」と聞いていたが、Q池で、まさかのサカナ発見。オタマジャクシか、メダカのようなスピードで動くものが見えたので、網ですくうと、モツゴのような魚がいた。大きさは2センチ弱。ついでに、スジエビ?も捕れた。サカナやエビが自然に入ってくるのか、人為的に持ち込まれたのかは不明。種も含めて、今後の調査結果が待たれる。

ヌマガエル



つぶらな瞳でこちらを見つめる  
「共生の森」で10年ぶりにヌマガエルを見た

見かけた植物・生き物



ノラニンジンとコアオハナムグリ ピラカンサとシロテンハナムグリ



ツチイナゴ トノサマバッタ



ヒメアカタテハ モンシロチョウ



ハマヒルガオ



コヒルガオ



ザクロ



ドクダミ



セイヨウヒキヨモギ



アメリカオニアザミ



コバンソウ



アカツメクサ



クスダマツメクサ



シオカラトンボ

「共生の森」の生き物 平成28年6月26日

キリギリス (キリギリス科)



童話「アリとキリギリス」から誰でも名前を知っているキリギリス。「共生の森」の草むらで鳴いているが、なかなか姿を見せることはない。

キリギリスの見られる時季は、それほど長くはなく、長い夏のあいだ中、楽しく歌を歌って、遊んで暮らしてしている訳でもなさそう。

「共生の森」には平成24年(4年前)に姿を現した。キリギリスは飛翔力がなく、周りに供給源もないことから、どうやって「共生の森」にやってきたのか謎の生き物のひとつ。

虫えい(ちゅうえい・虫こぶ)



クヌギの葉の上に、まんまるな「虫えい」があった。葉の一部が変形したものの。タマバチにかかると魔法にかけられたようにできる不思議な玉。



ヒメギス



クサカゲロウの仲間



テングチョウ



モンキチョウ



ベニシジミ



ヤマトシジミ

見かけた植物・生き物



トウネズミモチ



マサキ



アカメガシワ



ナンキンハゼ



ヤマゲタ



ウイキョウ



ムクドリ

この日は気温が高く、鳥たちも水浴びをしていた

「共生の森」の生き物 平成28年7月31日

キアゲハ (アゲハチョウ科)



ウイキョウにつく幼虫と卵を産む成虫

キアゲハは「共生の森」では春先から秋遅くまで普通に見られる蝶。

成虫はアゲハチョウにそっくりだが、幼虫の見た目は異なり、食べる植物も違う。アゲハチョウの幼虫がミカン科の植物につくのに対し、キアゲハの幼虫はセリ科の植物につく。

Q池の南側の一角に、ウイキョウ(セリ科)が定着している場所がある。今年は、ウイキョウにキアゲハの幼虫が大量発生している。

幼虫を見ていると、キアゲハが卵を産みにやってきた。

台湾ウチワヤンマ



すっかり定着



マイコアカネ



チョウトンボ



ショウジョウトンボ



アオモンイトトンボ



ギンヤンマ

見かけた植物・生き物



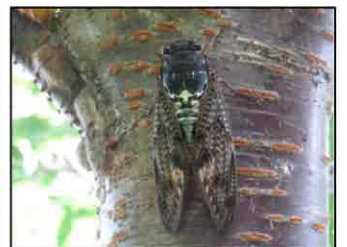
ヘクソカズラにやってきたクマバチ



ガマ



ツクツクボウシ



アブラゼミ



アオギリ



クサギ



クマゼミ クモの巣に...



ヒメクダマキモドキ



ハナハマセンブリ



マルバハッカ



モツゴ

ツクツクボウシ（セミ科）



「共生の森」の木が大きくなり、植生が豊かになるに従って、その環境に適応できる生き物がやってくる。

ツクツクボウシは平成 24 年の夏に登場し、「共生の森」に定着した。

今年は7月から鳴いている。

「共生の森」では他にクマゼミ、アブラゼミ、ニイニイゼミが定着していて、近隣に生息するセミ（4種類）は出そろっている。

ゴマダラチョウ



成虫



幼虫

ゴマダラチョウの幼虫はエノキの葉を食べる。この幼虫は、これから蝶になる。その蝶が産んだ卵が幼虫になり、幼虫の状態ですべて冬を越す。



マイコアカネ

見かけた植物・生き物



イヌビワ



ヘクソカズラ



ヤナギハナガサ チャバネセセリ



フヨウ



イチジク シロテンハナムグリ



アメリカノウゼンカズラ



アルファルファ



ランタナ



ショウジョウトンボ



シオカラトンボ



ショウリョウバッタ



キタテハ

カメの甲羅



乙池北側の車道の真ん中に、唐突もなくミシシッピアカミミガメの甲羅が転がっていた。なぜ甲羅が落ちているのか、「共生の森」で繁殖しているものなのか、詳細不明。



ヌートリア (ヌートリア科)



道を歩いていると草むらからヌートリアが出てきた。水辺での目撃情報がこれまでもあったため、ヌートリアには、いつか水辺で会えるものと思っていたが、初めて出会えたのは、まさかのJ山。一番近い水辺から直線距離で750m程度離れていること、J山周辺の排水溝に水が無いこと、歩き方を見ているとタヌキほどの躍動感がないことから、水辺から離れた、この周辺の草地で生息しているものと思われる。

視力は弱いようで、至近距離(3m)でも気づかない。「共生の森」で見られる細い、けもの道や、積んである草などにトンネルを掘る「キツネ・アライグマ疑惑」の犯人は、通常、水辺で暮らすと思われ指名手配からはずされている、ヌートリアかもしれない。

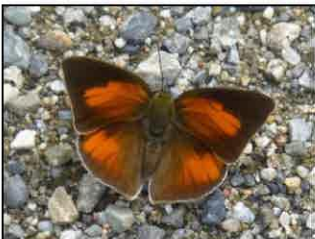
見かけた植物・生き物



ゴマダラチョウ



ツマダロヒョウモン



ウラギンシジミ



ウラナミシジミ



ツバメシジミ



ヤマトシジミ

イチモンジセセリ



ランタナの蜜を吸う イチモンジセセリ



クズ



ススキ



ヘクソカズラ



クヌギ



アキノゲシ



キクイモ



ツユクサ



シバズ



ハラオカメコオロギ



イノゴツチとコアオハナムグリ



キタキチョウ



キマダラセセリ



ウスバキトンボ



ヒガンバナ



ススキ (イネ科)



「秋の野に 咲きたる花を 指（および）折り  
かき数（かず）ふれば 七草（ななくさ）の花」  
「萩の花 尾花 葛花（おばな くずばな）などし  
この花 をみなえし また藤袴 朝顔の花」山上憶良  
万葉集で秋の七草に読まれたススキ（尾花）  
現在「共生の森」で多くみられるが植生の遷移  
が進むと、だんだん少なくなるかもしれません。

見かけた植物・生き物



フウセンカズラ(花は小さい)



センダン



タマスダレ



ハナカタバミ



マルバアサガオ



マメアサガオ



ホシアサガオ



カタテハ



タイリクアカネ



モンキチョウ



チャバネセセリ



カタキチョウ



モンシロチョウ

ムラサキツバメ



「共生の森」初登場

キミガヨラン



「共生の森」では春と秋に 2回 咲く



1つ実がなった



通常は落花

受粉を手助けするユッカ蛾が日本にいない為、自然下では結実しないといわれるが、実がなっていた。

タヌキの溜め糞



アキグミ



溜め糞

アキグミのそばのタヌキの溜め糞には未消化のアキグミがたくさん入っていた。

コミズク



草原から飛び出したコミズク。(J山)  
もう、冬はすぐそこ。

オンブバッタ (オンブバッタ科)



冷たい雨が降りしきる中、その名のとおりのおんぶバッタがいた。背中に乗っているのはオスで、親子ではない。

オンブバッタは他のバッタに比べ、出現時期が遅く「共生の森」で最も遅くまでみられるバッタのひとつ。12月ごろまで見られる。

オンブバッタは褐色のタイプもいる。「共生の森」では、みどり色の羽の下の後翅が赤色の南方系のオオンブバッタが多い。海辺にある「共生の森」の生き物は、温暖化の最前線をいっている。

ヤマトシジミ



コセンダングサにとまり、雨に耐える



スイカズラ



オシロイバナ



イヌホオズキ



ハナカタバミ



アレチヌスビトハギ



タヌキは雨でも活動(4頭目撃)

見かけた植物・生き物



ナンキンハゼ



ノイバラ



ナンキンハゼ



カリン



トベラ



フウセンカズラ



アキニレ



トキワサンザシ(ヒラカンサ)

何者かが住んでいる?



J山の海側に剪定枝等が積まれている  
そこに何者かがあけた穴がたくさんあいている

モズ (モズ科)



大阪府・堺市の鳥に指定されているモズ。  
 大阪に縁のある鳥で「共生の森」のある堺市の百舌鳥（モズ）の地名は日本書紀に遡り、仁徳天皇陵築造の時、倒れた鹿の耳からモズが飛び出したことに由来する。  
 モズはカエルなどの小動物を枝などに突き刺しはやにえにするが、「共生の森」ではカエルやトカゲなどの小動物のはやにえは少なく、昆虫のはやにえが多い。海辺ということを反映して、フナムシの はやにえ もある。

見かけた植物・生き物



ベニシジミ



キタテハ



ヒメアカタテハ



オンブバッタ



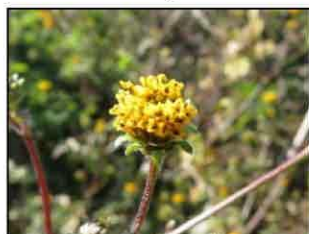
ムラサキカタバミ



ランタナ



セイヨウタンポポ



コセンダングサ

ミサゴ



足に さかな を持つ



ノスリ



メジロ



ホシハジロ



タヌキ



トキワサンザシ(ピラカンサ)



トウネズミモチ

J山 平成20年2月植栽箇所



まだ紅葉が残り景色に彩があるが、1月末には閑散とした風景になる。